

進路だより 令和元年7月19日発行

兵庫県立

# 夢に向かって

視覚特別支援学校

進路指導部発行

## 平成31年度 進路講演会の開催について

今年度は辰巳社会保険労務士事務所の辰巳周平氏をお招きして、9月27日（金）の3・4時間目に実施します。

辰巳氏は、自身に眼の障害が発覚したことをきっかけに、障害年金専門の社会保険労務士として活動を始めた方です。現在、明石市に社会保険労務士事務所を開き、障害年金に関する相談等に応じています。

視覚に障害のあるご自身の経験から社会保険労務士を目指した辰巳氏の生き方や、障害年金についての具体的な話を伺いつつ、進路について考えを深めることのできる良い機会です。保護者の皆様、ぜひご参加ください。



## コラム 障害者枠の就労が簡単という誤解

障害者雇用枠を利用して自分の障害を会社等に明らかにして就職するのがよいのか、一般就労で応募して就職するのがよいのか、悩むケースがあります。今回は、『障害者ドットコム』の下記アドレス（一部改変）を参考にしながら、そのことを考えてみましょう。

[https://shohgaisha.com/column/grown\\_up\\_detail?id=1033](https://shohgaisha.com/column/grown_up_detail?id=1033)

## 就職は簡単ではない

障害者枠に応募するのをオープン就労と呼び、一般応募で就職することをクローズド就労と呼びます。オープン就労は、クローズド就労に比べると給与面や業務内容は弱いものの合理的配慮を得やすいのが特徴です。近年は法定雇用率の上昇や人手不足などにより、障害者枠での採用に力を入れる企業も多いと聞きます。では、望めばどこへでも障害者枠で就職できるのかというと、そうでもありません。逆に、オープン就労を誤解するあまり不採用続きになるケースが多いのです。

企業というのは利益が出ないとつぶれてしまいますので、従業員には常に利益へとつながる働きぶりを求めています。応募者を見る上で重要なファクターとしているのは、「一緒に働いていけるか」「働いていく中でわが社に利益をもたらしてくれるか」という点です。ですから、「障害者枠があるのだし、就職なんて余裕だ」などと考えているような人は、採用されない可能性が高いと言われています。

## 自己分析が必要

障害者のオープン就労における自己分析とは、得手不得手や過去の経験などから志望動機などを書き上げるのに大切なだけでなく、こういった合理的配慮を求めるときぼるためにも不可欠なものです。企業が障害者を雇用する際には合理的配慮が求められるのですが、全てに対応するのはどう考えても不可能です。

「どうしても配慮を求めたいもの」と「自分次第で折り合いがつくもの」を、応募者側が予め弁別し、配慮事項を厳選しておくべきでしょう。それには自分だけの障害特性についてある程度結論付けておかねばなりません。配慮を求めるとなおさら、不利になるのではと思われるでしょうが、配慮事項を煮詰めていない人の方が採用後のミスマッチを起こしやすく、応募者と企業の双方が損をする結果となります。

### 面接対策に健常も障害もない

不採用の原因としてもう一つ挙げられるのが、企業研究不足です。これは新卒も既卒も健常も障害も問いません。企業研究が足りないと志望動機がまとまりませんし、質問にも答えられません。何より「御社でないと駄目です！」という意思が伝わりません。採用側に「別にうちじゃなくてもいいのでは？」と思わせないようにしたいものです。

応募先企業のホームページ（特に「企業理念」の部分）をよく読み込んでおき、「貴社の理念に共感しました」という意思をうかがわせる志望動機を書けるようにしておきましょう。自己分析や企業研究のみならず、およそ面接対策と言われていることは一通り求められます。身だしなみを整えて第一印象を良くすることもそうですし、座るタイミングや姿勢も守らねばなりません。オープン就労だろうとクローズド就労だろうと、面接の場で求められることは全然変わりませんし、何かしら免除されるようなこともありません。

## まとめ

障害者雇用に力を入れる企業は増えておりますが、余分に人員を採用する程ゆとりがある訳ではありません。企業が一番嫌がるのはせっかく採用した人が短期間で辞めてしまうことです。そのため、面接による選考をおざなりにはできません。面接を通過して採用へ至るには、自己分析・企業研究・その他面接マナーの遵守が求められるのです。

さらに、「客観的な評価」も、就労に必要なものといえます。自分一人で面接スキルを磨こうとすると、致命的な欠陥が直らないまま不採用を重ねる事になるでしょう。どこか面接シミュレーションの場に参加し、受かる面接ができているかどうかを客観的な目線で評価してもらうことも必要になってきます。途中から面接の話ばかりになりましたが、就活のほとんどは面接で決まりますので、自ずとそうした話の展開になります。障害者枠へのオープン就労であろうとも、面接に必要な準備をおろそかにしては、つなげたはずの縁を逃してしまうということを心しておきましょう。

---

今回のコラム、いかがだったでしょうか？

引用にあたっては、『障害者ドットコム』主宰の川田祐一様から、快諾いただきました。今後も、進路を考えるうえで参考となるコラムを掲載していきます。

---